



ケシンプタ®皮下注20mgペンが処方され、
「自己投与」が可能と判断された患者さんにご家族の方へ

正しく
自己投与
するために

ケシンプタ 自己投与ガイドブック

【監修】慶應義塾大学 医学部 神経内科 教授 中原 仁 先生

投与方法の「動画」はこちら

ケシンプタの投与方法は「動画」で見することもできます

<https://www.okusuri.novartis.co.jp/kesimpta/self-administration>



はじめに



この『ケシンプタ 自己投与ガイドブック』では、医療施設で主治医から「自己投与」に関する十分な指導を受けた後に、患者さんご本人またはご家族の方などが**ケシンプタ皮下注20mgペンを正しく自己投与していただくための方法やポイント、Q&Aなどを紹介**しています。

⚠️ 「自己投与」にあたっての大切な注意事項

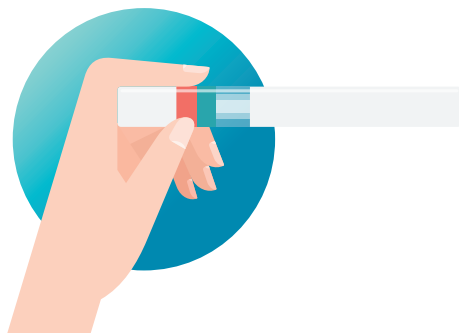
「自己投与」とは、医師や看護師ではなく、**患者さんご本人またはご家族の方**などが自宅などで行う投与（注射）のことです。自己投与を正しく行うためには、実際に投与を行う人が、医療施設で**「自己投与」に関する十分な指導を受けた後に**、主治医・看護師・薬剤師の先生による指導の下で投与方法を**きちんと練習して、確実に自己投与できるよう慣れておく**必要があります。

- 患者さんご本人またはご家族の方などが自己投与を適切に行えないなど、**「自己投与の継続が困難」と主治医が判断**した場合は**自己投与を中止し、通院投与に切り替える**場合もあります。
- 自己投与に際しては、**十分な体調管理が大切**です。**風邪などの感染症の症状**（喉の痛み、寒気、発熱、咳 など）や**体調の変化**などがみられた時は、**すぐに主治医に相談**してください。
- 自己投与がうまくできない場合や、わからないことがある場合は、主治医・看護師・薬剤師の先生にご相談ください。



ケシンプタ皮下注20mgペンの自己投与は、主治医により「確実に自己投与可能」と判断された患者さんにのみ認められています。

目次



はじめに	1
ケシンプタ皮下注20mgペンの特徴	3
ケシンプタ皮下注20mgペンの投与スケジュール	4
医療施設で受け取るもの	5
ケシンプタの保存方法	6
STEP 1 自己投与を行う前に「準備」する	7
• 自己投与を行う部位を「選択」する	9
STEP 2 「自己投与」を行う	
• 腹部（おなか）の場合	10
• 大腿部（ <small>だいたい</small> 太もも）の場合	13
• 上腕部の外側（二の腕）の場合	16
STEP 3 自己投与が終わったら	
• 投与後の使用済みのペンとキャップを「廃棄」する	19
• いつもと違う「体調の変化」を感じたら	20
よくある質問 Q&A	
• 投与スケジュールについて	21
• ペンのトラブルについて	22
• 投与手技のトラブルについて	23
• 投与後のこと（気になる症状、日常生活 など）	24

ケシンプタ皮下注20mgペンの特徴

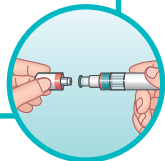
キャップを取って、ペンを投与部位に押し付けることで投与が完了する“ペン型”のお薬です。

投与の準備～廃棄を通じて手順が簡便なため、自己投与に適しています

【ペンの使いやすさ 3つのポイント】

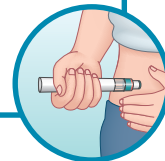
準備

キャップを取ることで、投与準備完了です。



投与

ボタンがなく、ペンを投与部位に押し付けることで投与できます。薬液の注入が完了したら、注射針は自動的に針カバー内に戻ります。



(1回ごとに使い捨て)

廃棄

ご自身でご用意した、かたい容器に入れてください。各医療施設のルールに従い、「医療廃棄物」として適切に廃棄してください。



針キャップ 注射針

針サイズ
29G* 1/2

注射針が、投与前も投与後も針カバーの中に隠れており、針が見えてしまうことはありません

「持ちやすさ」を追求した、人間工学に基づく“三角形”構造

*: G (ゲージ) の数値が大きくなるほど、注射針の太さが“細く”なります。
一般的な皮下投与 (インフルエンザワクチンなど) では、22~25Gが使用されています。

ケシンプタ皮下注20mgペンの投与スケジュール

初回投与以降は、1週後・2週後・4週後に、
投与開始4週後以降の維持期では4週間ごとに、ペン1本分を皮下投与します
(皮膚の下に投与)



初回、1週後、2週後、4週後に
ペン1本分を皮下投与

初回
1週後
2週後
~~3週後~~
4週後

初回投与は
医療施設で行います

投与しない

投与開始4週後以降 (維持期)

投与開始4週後以降は、4週間ごとに
ペン1本分を皮下投与

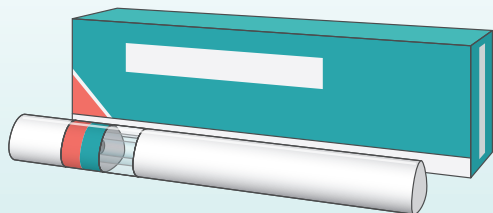
8週後

12週後



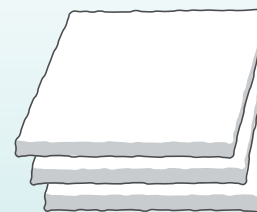
医療施設で受け取るもの

ケシンプタペン



箱の中に、ペン型のお薬である
ケシンプタが入っています

アルコール消毒綿



投与部位を
消毒するために使用します

『ケシンプタ ダイアリー』



ケシンプタ投与時の詳細や、
その後の気になる変化
などを記録したり、
次回投与日も忘れずに確認できる
シール付きカレンダーも
入っています

患者さん向け小冊子 『はじめてのケシンプタ』



ケシンプタの特徴や、
治療にあたって
注意すべき点などを解説した、
患者さん向けの小冊子です

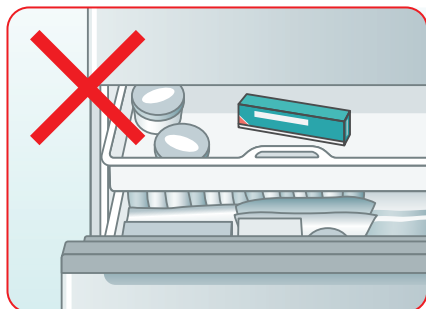
ケシンプタの保存方法

医療施設（病院、薬局 など）で受け取ったケシンプタは、自己投与を行う時まで、箱に入れたまま「冷蔵庫」（2～8℃）で保存[#]してください（冷凍庫などで凍結させないでください）

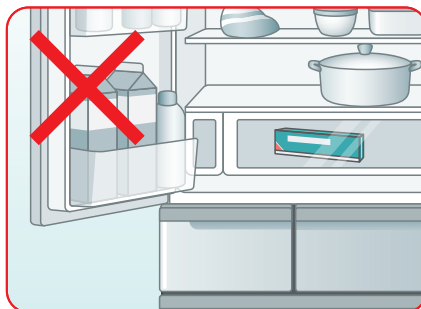
[#] やむを得ず室温（30℃以下）で保存する場合：
「7日間」は保存可能ですが、この期間内に使用しなかった場合は、冷蔵庫に戻し7日以内に使用してください



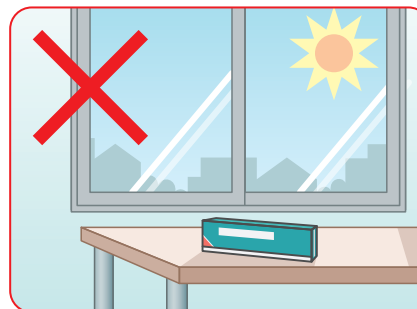
⚠ ケシンプタ保存時の注意事項



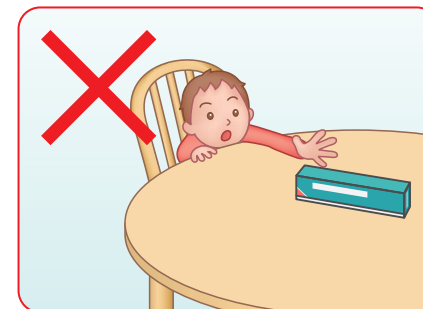
「冷凍庫」には入れない
(凍結させないこと)



チルド室、野菜室、
冷気の吹き出し口付近には
置かない (凍結させないこと)



直射日光の当たる場所に
放置しない



子どもの手の届かない
場所に置くなど、
子どもの手に触れさせない

STEP 1

自己投与を行う前に「準備」する



①箱を「冷蔵庫」から出して 室温に戻します

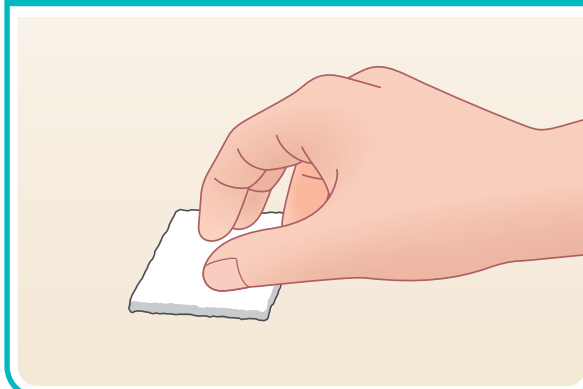


投与する15～30分前に、
ペンが入った箱を
「冷蔵庫」から出し、
箱のまま室温に戻します。



15～30分前
に出す

②明るく平らな場所を確保して、 消毒します



明るく平らな場所を選んで、消毒します。

③石けんで手を洗います



石けんを使って、手を丁寧に洗います。

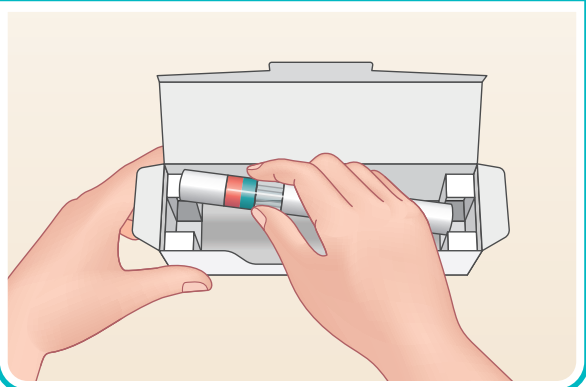


箱を「冷蔵庫」から出した後の注意事項

- 電子レンジで温めたり、湯せんしたりしないでください。
- 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。
- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置くなど、子どもの手に触れさせないようにしてください。

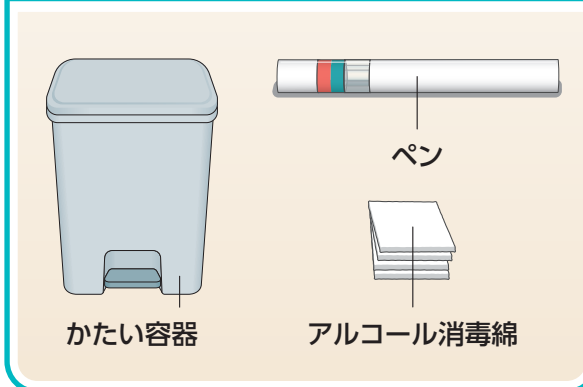


④ 室温に戻した箱から、ペンを取り出します



①で室温に戻した箱から、ペンを取り出します。

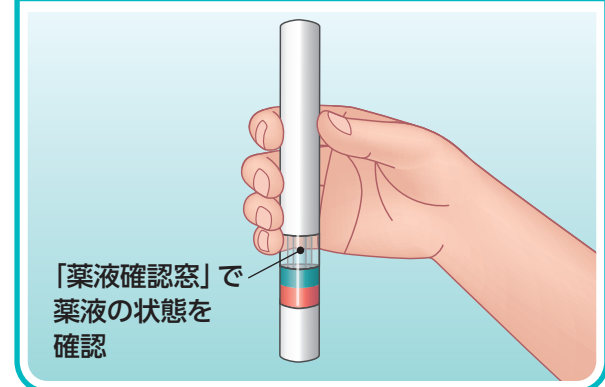
⑤ 投与に必要なものを並べます



②の場所に、下記のを並べて準備します。

- ペン1本 (室温に戻し、箱から出したペン)
- アルコール消毒綿
- かたい容器

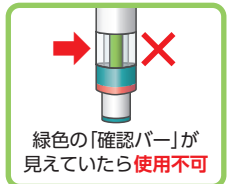
⑥ 薬液とペンの状態を確認します



下記の点をそれぞれ確認します。

《薬液の状態を確認》—薬液確認窓から—

- 薬液が**変色していないこと**
(ケシンプタの薬液は、「無色～微褐色の澄明またはわずかに混濁した液」です)
- 薬液に**異物が混ざっていないこと**
(薬液中に気泡が見える場合がありますが、問題ありません)
- 薬液確認窓から、**緑色の「確認バー」が見えていないこと**
(緑色の「確認バー」が見えるということは、薬液の注入が完了したことを示しています)



《ペンの状態を確認》

- ペンの使用期限が過ぎていないこと
- ペンが破損していないこと
- 使用済みのペンではないこと

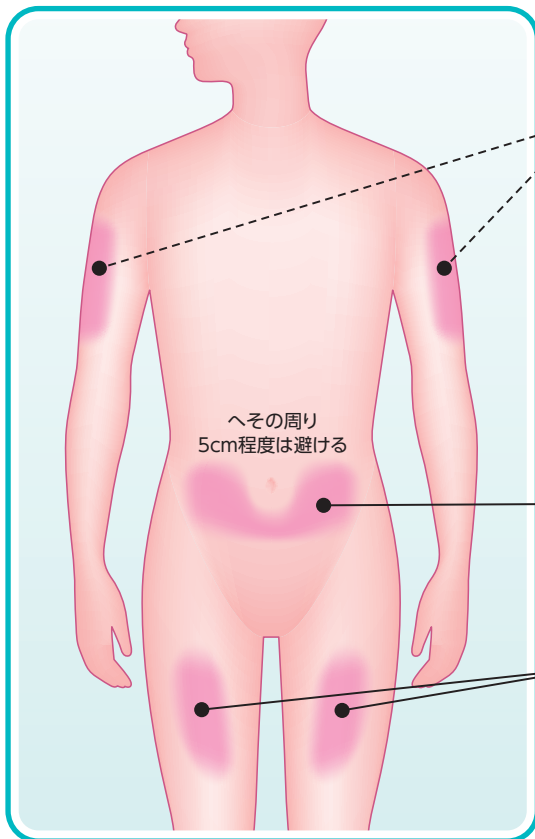
⚠ 投与の直前までは、ペンのキャップを外さないでください

⚠ 下記の場合は使用せず、主治医にご連絡ください

- 薬液が本薬の性状 (無色～微褐色の澄明またはわずかに混濁した液) と異なる場合
- 薬液に異物 (粒、塊 など) が混ざっている場合
(薬液中に気泡が見える場合がありますが、問題ありません)
- ペンの使用期限 (外箱に表示) が過ぎている場合
- ペンが破損している場合

STEP 1

自己投与を行う前に「準備」する 自己投与を行う部位を「選択」する



投与できる部位は下記の3つです

上腕部の外側（二の腕）(※p16~18)

- ・「上腕部の外側」は、ご家族の方など、**患者さんご本人以外の方が投与される場合のみ投与できます。**
- ・したがって、患者さんご本人が投与される場合は、**「腹部」または「大腿部」を選択してください。**
- ・「上腕部の外側」の場合、皮下脂肪が少ない場合は**他の部位への投与を検討してください。**

腹部（おなか）(※p10~12)

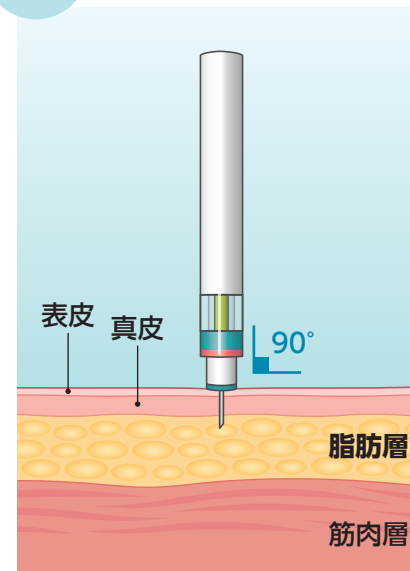
へその周り5cm程度は避けて投与してください。

大腿部（太もも）(※p13~15)

- ・鼠径部や膝に近い部位、
大腿部の外側・内側は避けて投与してください。
- ・大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、
大腿部への投与は推奨できません。

POINT

皮下投与とは？



皮膚の下にある「脂肪層」に投与します。
たるみがあって柔らかい部位を選ぶと、
比較的投与がしやすくなります。



「投与部位」に関する注意事項

- **投与部位は毎回変更してください。**（前回の投与部位から3cm以上離れた場所に投与してください）
- **皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷あとがある部位、硬くなっている部位には投与しないでください。**

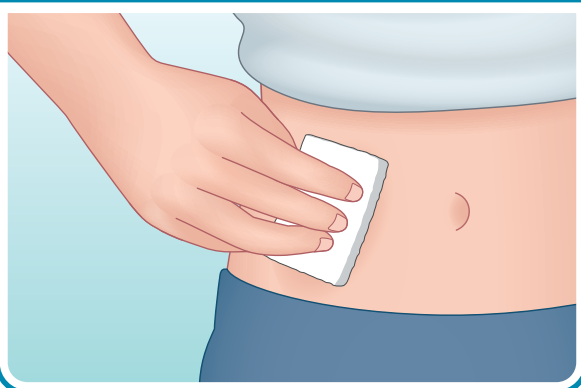
STEP 2

「自己投与」を行う〔腹部（おなか）の場合〕



投与開始

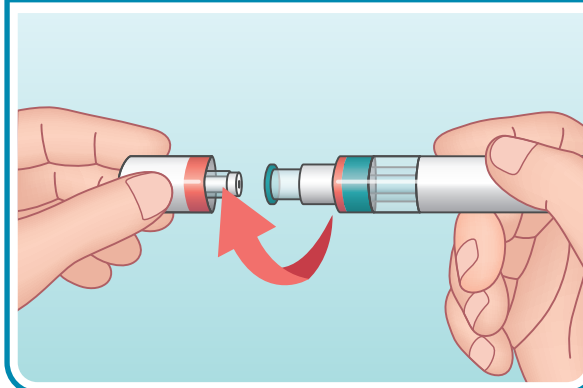
① 投与部位を消毒します



投与する腹部（おなか）とその周囲を広めに、アルコール消毒綿で消毒します。

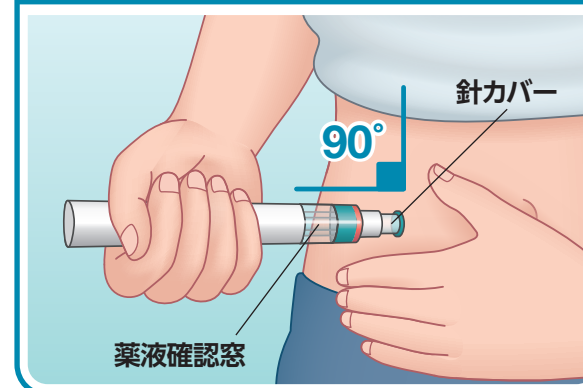
（消毒後は投与部位に触れないこと）

② キャップをひねって外します



キャップを矢印の方向にひねって外します。

③ ペンを投与部位に対し、直角に当てます



薬液確認窓が見えるようにペンを握り、投与部位に対し

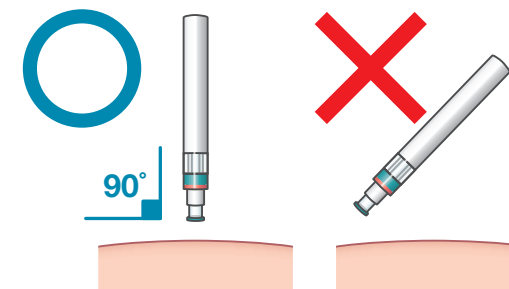
ペンの針カバーを**直角**に当てます。

（へその周り5cm程度は避けること）



「キャップ」を外す際の注意事項

- キャップを外したら、針カバーには触れずに、すぐに投与してください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 外したキャップは直ちにかたい容器に入れ、再度ペンにはめないでください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



自己投与の方法については、主治医・看護師・薬剤師の先生の指示に従ってください

STEP 2

「自己投与」を行う〔腹部（おなか）の場合〕

START
カチッ

薬液注入開始

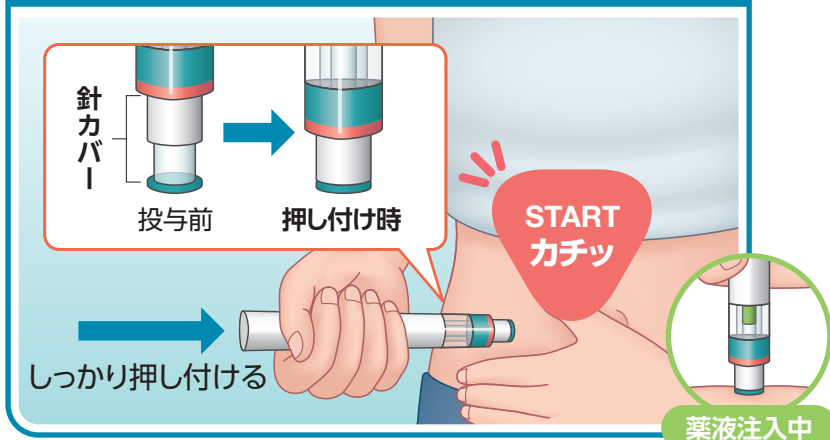


3~4秒程度経過

FINISH
カチッ

薬液注入完了

④ ペンを投与部位にしっかり押し付け、
「カチッ」と音がすると、
薬液の注入が始まります



- ペンを投与部位にしっかり押し付けます。緑色の「確認バー」が動き始める
針カバーを最後まで押し込まないと、正常に作動しません。
- ペンを押し付けると、「カチッ」と音がして薬液の注入が始まりますので、ペンは投与部位に押し付けたままにします。すると、薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」が動き始めます。

⑤ 再度「カチッ」と音がして、
緑色の「確認バー」の動きが止まったら、
薬液の注入は完了です



- 最初に「カチッ」と音がしてから3~4秒程度経過すると、今度は薬液注入完了の目安として、2回目の「カチッ」という音がします。
- 2回目の「カチッ」という音がしても、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まるまで、ペンを投与部位から離さないでください。

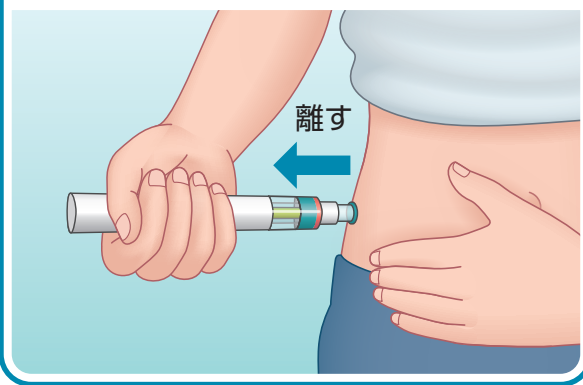
自己投与の方法については、主治医・看護師・薬剤師の先生の指示に従ってください



ケシンプタの
「腹部」への自己投与は
これで完了です

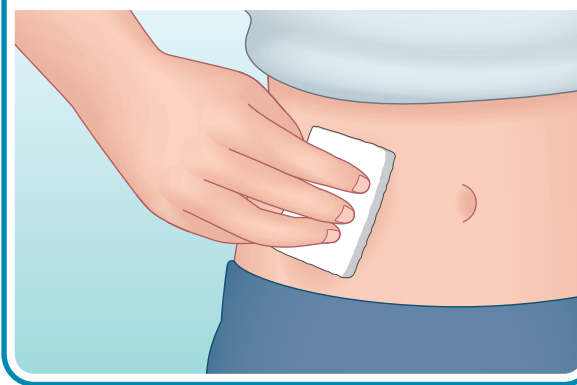
投与終了

⑥ ペンを投与部位から 離します



薬液確認窓から見える
緑色の「確認バー」の動きが止まったら、
ペンを投与部位から離します。

⑦ 新しいアルコール消毒綿で 投与部位を押さえます



- 投与部位に少量の出血がみられる場合は、
新しいアルコール消毒綿で
投与部位を**揉まずに10秒間押さえます**。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。



「投与終了」時における注意事項

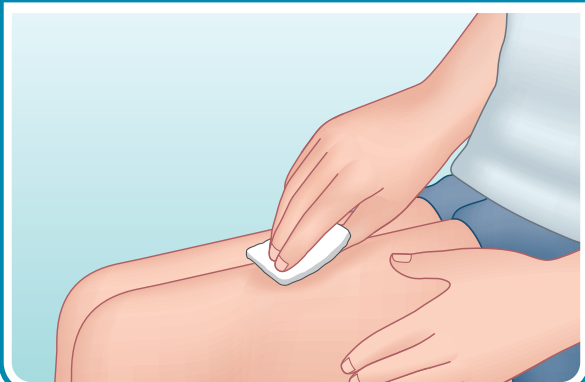
- 緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がっていない場合、
薬液がすべて注入されなかった可能性がありますので、
主治医に連絡して指示に従ってください。
- 投与後に投与部位を揉むと腫れることがありますので、**揉まないでください**。

STEP 2

「自己投与」を行う〔大腿部（太もも）の場合〕

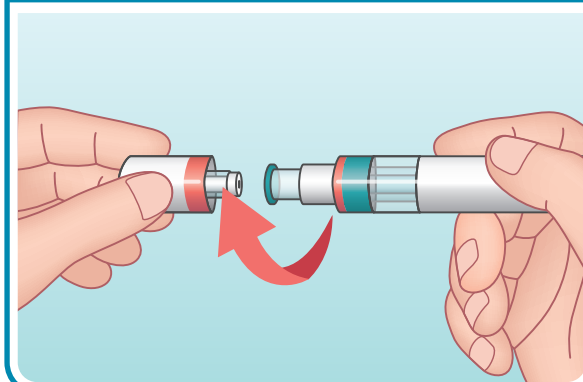
投与開始

① 投与部位を消毒します



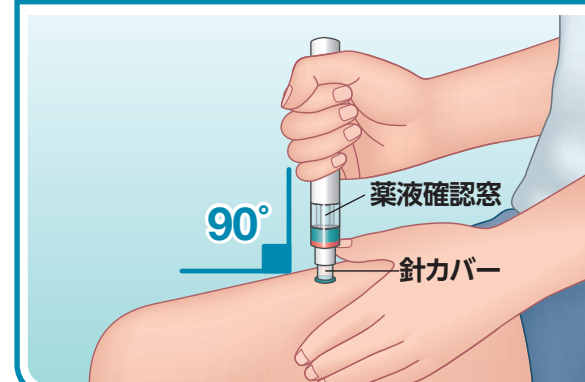
投与する大腿部（太もも）とその周囲を広めに、アルコール消毒綿で消毒します。
（消毒後は投与部位に触れないこと）

② キャップをひねって外します



キャップを矢印の方向にひねって外します。

③ ペンを投与部位に対し、直角に当てます

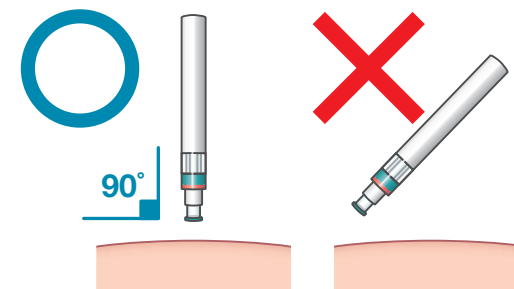


薬液確認窓が見えるようにペンを握り、投与部位に対しペンの針カバーを**直角**に当てます。



「キャップ」を外す際の注意事項

- キャップを外したら、針カバーには触れずに、すぐに投与してください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 外したキャップは直ちにかたい容器に入れ、再度ペンにはめないでください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



自己投与の方法については、主治医・看護師・薬剤師の先生の指示に従ってください



薬液注入開始

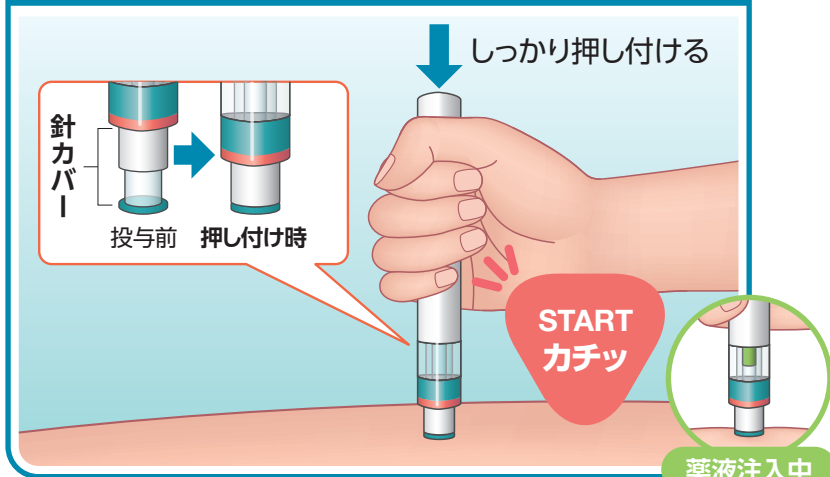


3~4秒程度経過



薬液注入完了

④ ペンを投与部位にしっかり押し付け、「カチッ」と音がすると、薬液の注入が始まります



- ペンを投与部位にしっかり押し付けます。緑色の「確認バー」が動き始める。針カバーを最後まで押し込まないと、正常に作動しません。
- ペンを押し付けると、「カチッ」と音がして薬液の注入が始まりますので、ペンは投与部位に押し付けたままにします。すると、薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」が動き始めます。

⑤ 再度「カチッ」と音がして、緑色の「確認バー」の動きが止まったら、薬液の注入は完了です



- 最初に「カチッ」と音がしてから3~4秒程度経過すると、今度は薬液注入完了の目安として、2回目の「カチッ」という音がします。
- 2回目の「カチッ」という音がしても、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まるまで、ペンを投与部位から離さないでください。

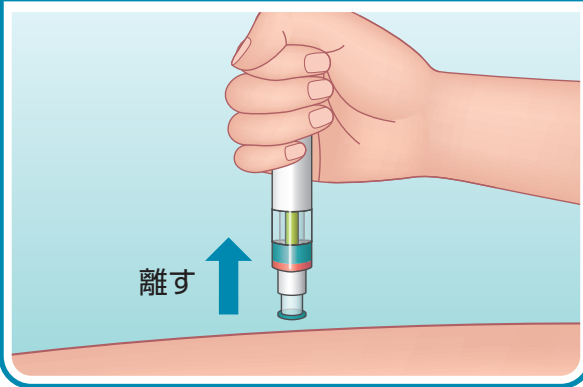
STEP 2

「自己投与」を行う〔大腿部（太もも）の場合〕



投与終了

⑥ ペンを投与部位から
離します



薬液確認窓から見える
緑色の「確認バー」の動きが止まったら、
ペンを投与部位から離します。

⑦ 新しいアルコール消毒綿で
投与部位を押さえます



- 投与部位に少量の出血がみられる場合は、
新しいアルコール消毒綿で
投与部位を**揉まずに10秒間押さえます**。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

ケシンプタの
「大腿部」への自己投与は
これで完了です



「投与終了」時における注意事項

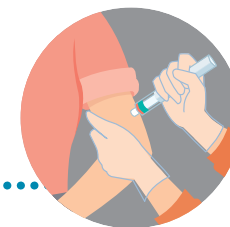
- 緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がっていない場合、
薬液がすべて注入されなかった可能性がありますので、
主治医に連絡して指示に従ってください。
- 投与後に投与部位を揉むと腫れることがありますので、**揉まないでください**。

自己投与の方法については、主治医・看護師・薬剤師の先生の指示に従ってください

STEP 2

「上腕部の外側」は、ご家族の方など、患者さんご本人以外の方が投与される場合に限られますのでご注意ください

「自己投与」を行う〔上腕部の外側（二の腕）の場合〕



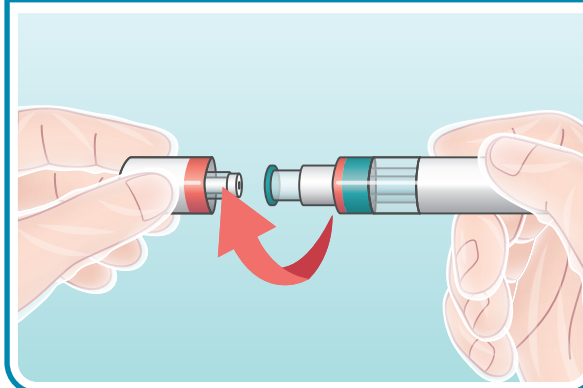
投与開始

① 投与部位を消毒します



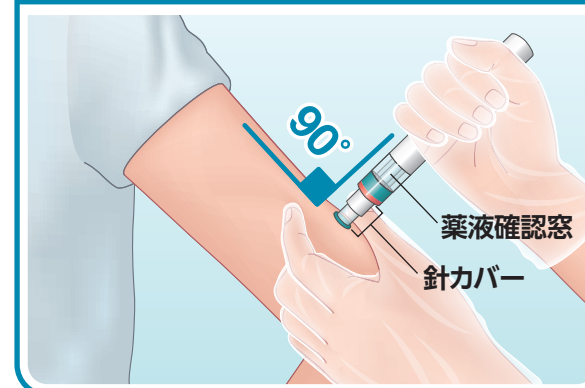
投与する上腕部の外側（二の腕）とその周囲を広めに、アルコール消毒綿で消毒します。
(消毒後は投与部位に触れないこと)

② キャップをひねって外します



キャップを矢印の方向にひねって外します。

③ ペンを投与部位に対し、直角に当てます

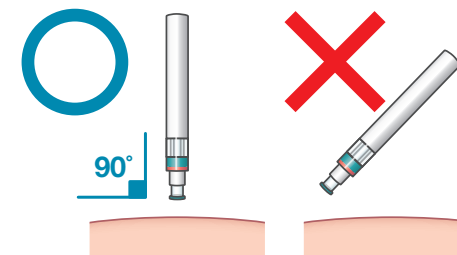


薬液確認窓が見えるようにペンを握り、投与部位に対しペンの針カバーを**直角**に当てます。
なお、上腕部の外側の皮下脂肪が少ない場合は、**他の部位への投与を検討**してください。



「キャップ」を外す際の注意事項

- キャップを外したら、針カバーには触れずに、すぐに投与してください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 外したキャップは直ちにかたい容器に入れ、再度ペンにはめないでください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



「上腕部の外側」は、ご家族の方など、患者さんご本人以外の方が投与される場合に限られますのでご注意ください

STEP 2

「自己投与」を行う〔上腕部の外側（二の腕）の場合〕

START
カチッ

薬液注入開始

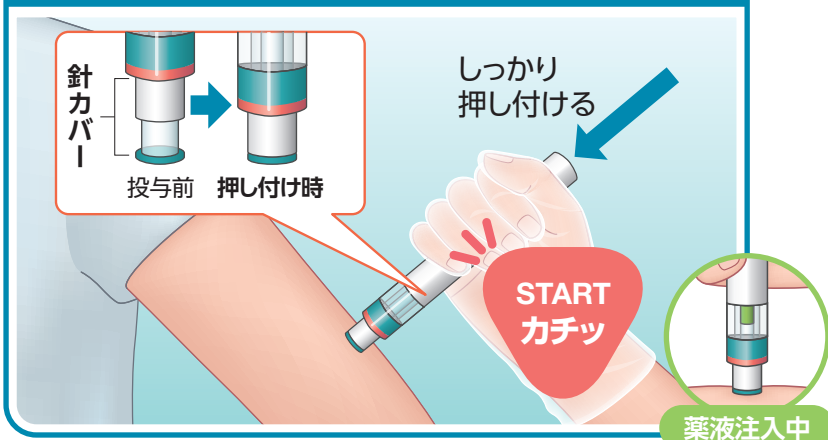


3~4秒程度経過

FINISH
カチッ

薬液注入完了

④ ペンを投与部位にしっかり押し付け、
「カチッ」と音がすると、
薬液の注入が始まります



- ペンを投与部位にしっかり押し付けます。針カバーを最後まで押し込まないと、正常に作動しません。
緑色の「確認バー」が動き始める
- ペンを押し付けると、「カチッ」と音がして薬液の注入が始まりますので、ペンは投与部位に押し付けたままにします。すると、薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」が動き始めます。

⑤ 再度「カチッ」と音がして、
緑色の「確認バー」の動きが止まったら、
薬液の注入は完了です



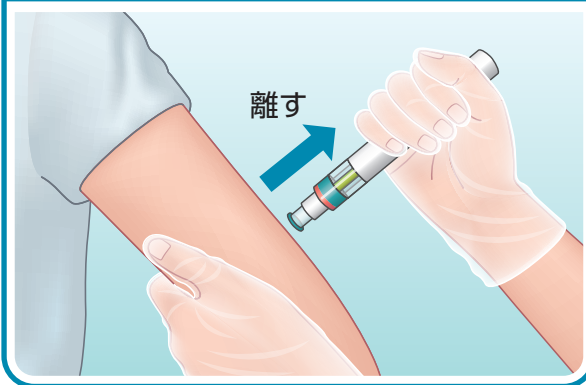
- 最初に「カチッ」と音がしてから3~4秒程度経過すると、今度は薬液注入完了の目安として、2回目の「カチッ」という音がします。
緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まる
- 2回目の「カチッ」という音がしても、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まるまで、ペンを投与部位から離さないでください。

自己投与の方法については、主治医・看護師・薬剤師の先生の指示に従ってください



投与終了

⑥ ペンを投与部位から離します



薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」の動きが止まったら、ペンを投与部位から離します。

⑦ 新しいアルコール消毒綿で投与部位を押さえます



- 投与部位に少量の出血がみられる場合は、新しいアルコール消毒綿で投与部位を**揉まずに10秒間押さえます**。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

ケシンプタの「上腕部の外側」への自己投与はこれで完了です



「投与終了」時における注意事項

- 緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がっていない場合、薬液がすべて注入されなかった可能性がありますので、主治医に連絡して指示に従ってください。
- 投与後に投与部位を揉むと腫れることがありますので、**揉まないでください**。

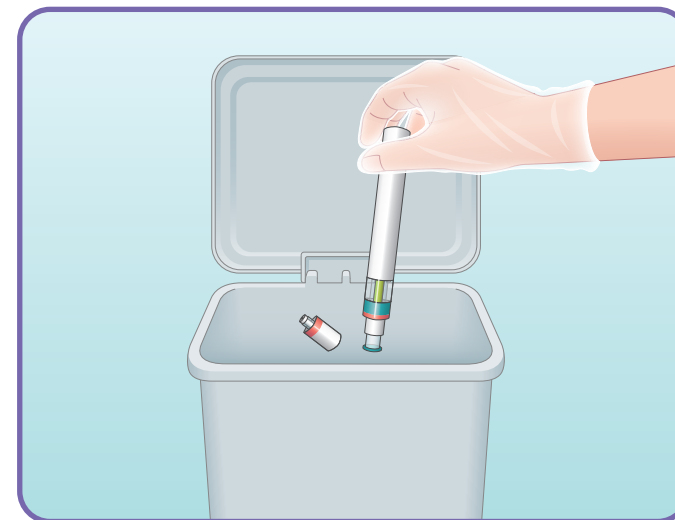
STEP 3

自己投与が終わったら

投与後の使用済みのペンとキャップを「廃棄」する

ケシンプタは、1回ごとの使い捨てタイプです。
再使用はできません

使用済みのペンとキャップは、
各医療施設のルールに従い、
「医療廃棄物」として適切に廃棄してください
(キャップは、ペンにはめないこと)



「廃棄」時における注意事項

- 使用済みのペンとキャップは、かたい容器に入れること [牛乳パックや薬の空容器など]
- 使用済みのペンとキャップは、「医療廃棄物」として取り扱われます。
廃棄方法は、各医療施設のルールに従ってください。
- 使用済みのアルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って、「家庭ごみ」として捨ててください。
- 使用済みのペンとキャップを入れたかたい容器は、子どもの手の届かない場所に保存してください。

STEP 3

自己投与が終わったら
ケシンプタ投与後にいつもと違う「体調の変化」を感じた時は、
ご自身で判断せずに、**すぐに主治医に相談してください**



注射に伴う全身反応〔皮下投与後24時間以内に発現した反応・症状のこと〕**（投与開始早期に注意）**

発熱



頭痛



筋肉痛



寒気



疲労^{※1}



アナフィラキシー^{※2}



など

※1：皮下投与後に感じる倦怠感

※2：全身・喉のかゆみ、じんま疹、ふらつき、動悸、息苦しいなどの症状



注射部位反応〔投与部位の皮膚に異常がみられること〕

投与部位が赤い、腫れている



投与部位が痛い



投与部位がかゆい



など



感染症〔投与中および投与中止後も注意〕

風邪の症状
（喉の痛み、寒気、発熱、咳 など）



など

副作用は早期に発見し、早めに適切な治療を行うことで、重症化を防ぐことが期待できます。
いつもと違う「体調の変化」を感じた時は、すぐに主治医に相談してください

よくある質問 Q&A



投与スケジュールについて

Q 投与予定日に投与するのを忘れてしまいました。
どうしたらよいですか？

A 投与予定日に投与できなかった場合は、気が付いた時点でできるだけ速やかに投与していただき、その後は規定された投与間隔で投与してください。

Q 何時頃に投与するのがよいですか？

A 投与する時間に決まりはありませんが、忘れないように、一定の時間（例、入浴後など）を決めておくとうよいでしょう。主治医の指示に従ってください。

Q 投与予定日に、旅行や出張が入ってしまいました。
どうしたらよいですか？

A 旅行や出張の予定日がわかりましたら、事前に主治医にご相談ください。その他の理由で投与予定日に投与できない場合も、あらかじめ主治医に連絡して指示に従ってください。ケシンプタを持ち運ぶ場合は、保冷剤入りのバッグに入れて持ち運んでください（2～8℃で保存する必要があります）。なお、やむを得ず室温（30℃以下）で保存する場合は、「7日間」は保存可能ですが、この期間内に使用しなかった場合は、冷蔵庫に戻し7日以内に使用してください。使用済みのペンとキャップは、ご自身でご用意したかたい容器に入れてください。

Q 体調がすぐれない時も、予定通り投与したほうがよいですか？

A 風邪などの感染症の症状（喉の痛み、寒気、発熱、咳 など）があったり、体調がすぐれない時は無理に投与せず、主治医に連絡してください。



ペンのトラブルについて

Q 投与する前にペンを落としたりなどして、
緑色の「確認バー」が動き始めてしまいました。どうしたらよいですか？

A そのペンは使用せず、新たなペンを準備し、手順に従って投与してください。
また、そのことについて主治医に連絡してください。

Q ペンを投与部位に押し付けても、薬液の注入が始まりません。
どうしたらよいですか？

A ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは投与部位に対して直角に当て、しっかり押し付けてください。
腹部に投与する場合、皮膚が柔らかすぎて、針カバーを押し込めない場合もありますので、必要に応じて皮膚を軽くつまんで投与部位を固定してください。
それでも薬液の注入が始まらない場合は、ペンが破損しているおそれがありますので、主治医に連絡して指示に従ってください。

Q 注入が速い時と遅い時がありますが、問題ありませんか？

A 問題ありません。緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了しています。
普段よりも注入時間が長いと感じられる場合にも、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まるまで、
ペンを押し付けたまま固定してください。

Q 注入完了時に「カチッ」という音が聞こえませんでした。問題ありませんか？

A 「カチッ」という音が聞こえなかった時は、緑色の「確認バー」の動きで、注入が完了しているかどうかを確認することができます。
緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了していますので、問題ありません。



Q ペンを室温に30分ほど置いたのですが、まだ冷たいようです。どうしたらよいですか？

A 薬液が冷たいと、刺激となって「痛み」を感じる可能性があります。室温に置く時間はあくまで目安ですので、季節や室内温度によって、室温に置く時間は調整してください。室温に戻しやすくするため、ペンを手で温めてもよいでしょう。



投与手技のトラブルについて

Q ペンの薬液注入中、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がる前に、ペンを途中で抜いてしまいました。どうしたらよいですか？

A この場合、規定の投与量がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡して指示に従ってください。ペンを途中で抜くことがないよう、投与の際には十分にご注意ください。なお、途中で抜いてしまったペンは再使用できませんので、廃棄用のかたい容器に入れてください。残っている薬液が排出されるおそれがありますので、廃棄時は取り扱いにご注意ください。

Q 投与している際に、薬液が漏れてしまいました。どうしたらよいですか？

A 薬液がどの程度漏れたのか、主治医に連絡して指示に従ってください。

Q 指示された本数よりも、多く投与してしまいました。

A すぐに主治医に連絡して、指示に従ってください。



投与後のこと (気になる症状、日常生活 など)

Q 投与した後に、発熱や頭痛、寒気などの症状がみられた場合は、
どうしたらよいですか？

A ご自分の判断で対処はせず、主治医に連絡して指示に従ってください。

Q 投与部位が痛くなったり、かゆくなったりした場合は、
どうしたらよいですか？

A ご自分の判断で対処はせず、主治医に連絡して指示に従ってください。

Q 投与部位が出血した場合は、どうしたらよいですか？

A アルコール消毒綿で押さえてください。

Q 薬液が目に入ってしまった場合は、どうしたらよいですか？

A 水で洗い流して、様子を見てください。
目に症状があらわれた場合は、主治医に連絡して指示に従ってください。

よくある質問 Q&A



Q 投与した後に、投与部位は揉んだほうがいいですか？

A 投与後に投与部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

Q 投与した後に、お風呂に入っても大丈夫ですか？

A 投与した日の入浴は可能ですが、投与直後は避けてください。

Q ケシンプタと一緒に、他のお薬も処方されました。
使用しても大丈夫ですか？

A 処方されたお薬は、医師の指示通り使用しましょう。
ご自分の判断で中止しないでください。

MEMO

A large rectangular area with rounded corners, outlined in teal, containing 18 horizontal dotted lines for writing.

緊急時連絡先

Medical Information

多発性硬化症 受診施設

- 医療機関名 _____
- 担当医師名 _____
- 住 所 _____
- 電話番号 _____

Medical Information

かかりつけ薬局

- 薬 局 名 _____
- 薬 剤 師 名 _____
- 住 所 _____
- 電話番号 _____

ケシンプタの使い方のお問い合わせはこちら

ノバルティス ダイレクト TEL: 0120-003-293 受付時間: 月~金 9:00~17:30
(祝日及び当社休日を除く)

ノバルティス ファーマ株式会社